

平成 31 年(2019 年)3 月 4 日

保護者のみなさま

豊能町立東ときわ台小学校
校長 久保康子

学校評価報告書

—アンケート集計の結果と今後の取り組みについて—

春寒の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、本校では、学校教育活動の改善等のため、昨年 1 2 月に、児童・保護者に対して、「児童の充実した学校生活」についてのアンケートを実施しました。その後、データを集計して分析作業を行い、明らかになった課題に対して校内で協議を重ね、改善の方向性をまとめました。その間、1 月 2 5 日の学校協議会では各委員の方々からもご意見をいただきました。

集計結果をみると、ほとんどの項目において肯定的評価となっています。このことは、本校の教育活動に対してご理解を得られている部分が多いと考えることができ、とても元気の出る結果でした。しかしながら、質問 1 「学校に行くのが楽しい」において肯定的意見が 1 0 0 %でないことに重きを置き、課題の見極めを行うとともに“楽しいと思える学校づくり”にさらに力を入れていく所存です。また、本校の設備・環境面をはじめとして、各質問で否定的意見があることも真摯に受け止め、改善を進めていきたいと考えています。

以下に特徴的な項目について、結果の分析による「自己評価」「改善の方向性」及び学校協議会委員の方からいただいた意見を「関係者評価」としてまとめ、お知らせいたします。また、集計結果の比較グラフと自由記述の集約も添付していますのでご覧ください。

今後も、「一人ひとりを大切にし、ともに学び・活動する喜びに満ちた学校」をめざし、
・ユニバーサルデザインに基づいた指導・支援の工夫を取り入れたどの子もわかる授業づくり

・互いに認め合い支え合う集団づくり

を中心に据えて、知育・徳育・体育のバランスのとれた教育活動を、保護者・地域の方々や関係機関との連携を大切にしながら進めていきます。

今後ともご理解ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

互いに認め合い支え合い、人権を大切にする集団作り	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 日々の集団づくりの実践や人権教育の取り組みに一定の成果がみられる。一方で、児童の思いの伝え方や人間関係の構築に関する課題も感じている。 昨年度に引き続き、「学校が楽しいと思えない」児童がいるので、その理由や背景をつかみ、丁寧に対応していく必要がある。 挨拶に関しては、肯定的な評価の割合が高いが、自分から進んで挨拶のできる児童は多くないと感じる。 自己肯定感に関しては、発達段階・単学級などの要因を意識した学級集団づくりをしていくと同時に、自己表現の仕方・相手の気持ちを考えるといったトレーニングも取り入れて学ぶ機会を設けていく。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 児童の困り感や悩みの早期発見・未然防止に努める。 普段から児童理解につとめ、児童の状況を教職員で共有する。 児童の小さな変化を見逃さず、学校全体でアプローチしていく。 肯定的な言葉かけを意識し、一人ひとりのがんばりを学級集団に返していく。その際、結果だけでなく、そこまでのプロセスも大切にする。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感が低いのは全国的な流れなのか、日ごろの成功体験が今の子どもたちには少ないように感じる。また、他の人からほめてもらうだけでなく、他の人のよいところを見つけ、言えるようになることも大事である。
確かな学力のために、基礎基本の確実な定着を図る	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で取り組んでいるということや、それを子どもたちが素直に受け入れて学習していることに加えて、地域や家庭が協力・連携してくれていることが結果となって表れていると考える。 基礎的学力の定着・活用を図り、様々な活動を通して学ぶことの楽しさやよりよい学習集団作りを今後も追究し、大切にしていかなければならない。

改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 日ごろから子どもの実態をふまえた授業づくりに取り組みたい。 学級集団づくりと連動させながら、安心して学べる学習集団を形成していく。 めざす児童像を明確にもち、「よさ」を認めていく取り組みを行う。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導の評価が少し低くなってきているが、調査対象児童も年々減少しており、そのひずみも出てきているのではないだろうか。 全体的に肯定的評価が多く、先生方はきちんと丁寧に指導されていると思う。 特別活動での「特別の時間」の取り組みはとてもよいと思うので、もっと地域の人たちにもアピールしていけばよい。
日常生活を通して、健康への関心と態度を育成する	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 多くの児童が、目標を持って行事に取り組んでいると感じている。また、保護者も教職員も、学校行事に取り組む子どもたちから前向きな姿勢を感じ、評価をしている。 外遊び（クラス遊び）をしている学年と、そうでない学年が明確に分かれている。また、クラス遊び以外で自主的に外に出る児童は多くない。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> すべての児童が学校行事を通じて充実感や達成感を味わえるよう、活動の内容や取り組み方を工夫する。 体を動かすことで得られる効果は高い。子どもがその喜びを感じられるように、機会を意図的に設けるとともに、引き続き、教職員も子どもたちと体を動かす機会を持つよう意識する。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 今の子どもたちは、家で遊ぶ機会が少ないと思う。もう少しゆとりをもって遊べたらいいのにといつも思う。放課後に遊びだけの時間を設けるなどしていけばどうだろうか。 学校の休み時間では、外でよく遊んでいるという結果が出ているようなので、とても安心した

地域に学び、保護者や地域との連携につとめる（学校経営に関して）	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の学校だよりなどをホームページに載せて更新しているが、さらに幅広く学校の様子を知らせるまでには至っていない。 毎年不審者対応教員研修を行っており、その反省を校内訓練に生かしている。日頃から様々な状況を想定し、意識をもって生活していきたい。 年度当初に計画はなかったが、緊急避難訓練の必要性を感じ、1月にピックアップ訓練を行った。反省点を整理し、来年度以降も続けていく。 地域ボランティアの登下校の見守りは、毎年高く評価されている。 現在の学校の施設・設備は十分に満足できる状態とは言えず、保護者記述にも施設の老朽化に関する意見、暑さ・寒さ対策の充実を求める意見が多い。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動での取り組みの様子を伝えるなど、学校生活の様子を伝えるページを更新し、情報提供の充実をはかる。 大災害により、学校⇄保護者の通信が途絶えたとしても、安全を確保できるシステムを構築していく必要がある。 町や学校から出している災害行動マニュアルのさらなる周知を徹底していく。 校区内で施設建設の工事が始まっていることもあり、安全性について、再度点検し、危険要因があれば改善していく。 普通教室における空調設備の設置が、次年度から実施される予定である。今後も施設・設備の改善を町へ伝えていく。また、教職員でできることやPTAに協力願うことを具体的に提示していく。 授業やクラブ支援、校内や花壇の整備等、多くの場面でボランティアの方々に協力いただいていることを校外や保護者に、より知らせていく。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の多い年度であったが、緊急時は学校から具体的な指示があるとよい。 空調の設備に関しては、今年の夏までに間に合うようにしてほしい。

関係者評価を受けて、来年度はまず以下の2点について取り組んでいきます。

- ① 地域・保護者の方への情報提供の場を増やす。
- ② 子どもたちの活躍の場をさらに増やす。